



きずな

3部リーグ Fブロック

当ブロックは、TFCジュントス、中の島、篠路FC、FCリベルタ豊平、山の手、澄川JFC、札幌シーガル若葉ボンバーズの8チームで戦いました。当初予定の4月27日から8月17日の全日程で順調に消化することが出来ました。結果は、1位篠路FC13勝1敗勝点39、2位札幌シーガ12勝1分1敗の勝点36、3位澄川JFC7勝2分5敗勝点23、4位TFCジュントス7勝1分6敗勝点22、5位中の島5勝2分7負勝点17、6位若葉ボンバー5勝2分7敗勝点17、7位FCリベルタ豊平2勝2分10敗の勝点8、8位山の手0勝14敗勝点0の順でした。上位2チームは、攻守のバランスも良くチームとしての組織プレーが随所に見られ、個の能力も高く確実に得点を重ね、安定した戦いの中で、第9節まで札幌シーガルは全勝で、篠路FCは3節で札幌シーガルに敗れた1敗で追従していましたが、第11節の直接



石狩市スポーツ広場会場



1位となった篠路FCの選手達

当リーグは、最終日を除き2面を確保できる会場で行われ、降雨による影響も受けず、各チームの指導者及び保護者の皆様のご協力により、全日程を予定通り消化し、円滑にリーグ戦を運営することが出来ました。

また、石狩市スポーツ広場開催時は終了後のピッチを使ってのU-11、午前中に若葉ボンバーズの練習場所の芝で、U-8~10の交流試合を4日間で延べ30チームから多くの選手が参加し行い、リーグ戦参加メンバー以外も充実した活動を行えました。

駐車台数の制限がなく、リーグ戦と合わせ交流試合でも多くの保護者の来場もあり、毎回選手への熱い声援に会場も盛り上がっていました。

リーグ戦終了後に、全選手と指導者が集まり終了式を行い、全選手による挨拶で解散しました。

対決で篠路FCが勝利して1位となり、その後も勝ち進み総得点63、失点7、得失点差56での1位で、2位の札幌シーガルも総得点74、失点21、得失点差53の好成績でした。

5ヶ月に亘るリーグ戦を通し試合を重ねる毎に、各チームのサッカー技術は勿論、身体的な成長も見られ後半は拮抗した試合が多く見られた中で、3位となった澄川JFCの個とチーム力の成長が顕著に見られたことが印象に残りました。

審判は1人制で行ったが、特に問題なく、警告を受けた選手も無く、日頃の各チームの指導の成果が十分発揮されていました。



リーグ戦終了後の終了式の様子